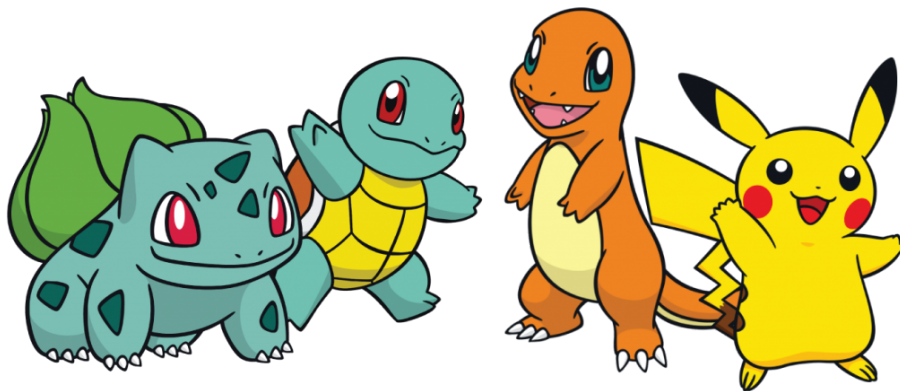


要件定義書 ポケペディア

マンパワーグループ株式会社
サービスインテグレーション課
ボリソブ アレクサンダー



目次

• 1 はじめに.....	2
1.1 本書の目的.....	2
1.2 本書の対象.....	2
1.3 本書の範囲.....	2
• 2 システム方針	3
2.1 基本方針.....	3
2.2 ブラウザへの対応.....	3
2.3 APIとデータについて.....	3
2.4 言語・フレームワーク・ライブラリ・データベース.....	3
• 3 システム概要.....	4
3.1 主な機能図.....	4
3.2 詳細説明.....	4
• 4 システム機能概要.....	5
4.1 ホームページ.....	5
4.2 ポケペディア.....	5
4.3 ポケカメラ.....	6
• 5 利用条件.....	7
5.1 PC上利用条件.....	7
5.2 スマートフォンの対応条件.....	7
• 6 試験要件.....	8
6.1 試験範囲.....	8
6.2 単体試験.....	8
6.3 コンポーネント試験.....	8
6.4 結合試験.....	8

はじめに

1.1 本書の目的

本書は、ポケペディアというウェブサイトについて、その目的・アーキテクチャ・機能を解説するものです。

ポケペディアは、ポケモンの詳しい姿を紹介することを目的としたサイトです。

1.2 本書の対象

本書は、マンパワーグループ株式会社のエンジニアの成果を監査する人を対象としています。

1.3 本書の範囲

本書は、アプリケーションの基本機能、詳細なアーキテクチャ、視覚的表現、使用されている技術、使用条件、およびアプリケーションのテスト範囲について説明しています。

システム方針

2.1 基本方針

ポケペディアは非営利使用の目的のためのアプリケーションのみであり、ソフトウェアエンジニアの能力を示すために開発されています。

2.2 ブラウザへの対応

推奨ブラウザはGoogle Chromeです。すべての開発および試験は、Google Chromeを使用して実施されています。

2.3 APIとデータについて

アプリケーションで使用されているすべてのデータは、第三者のAPIサービス「[PokeAPI](#)」から取得されています。

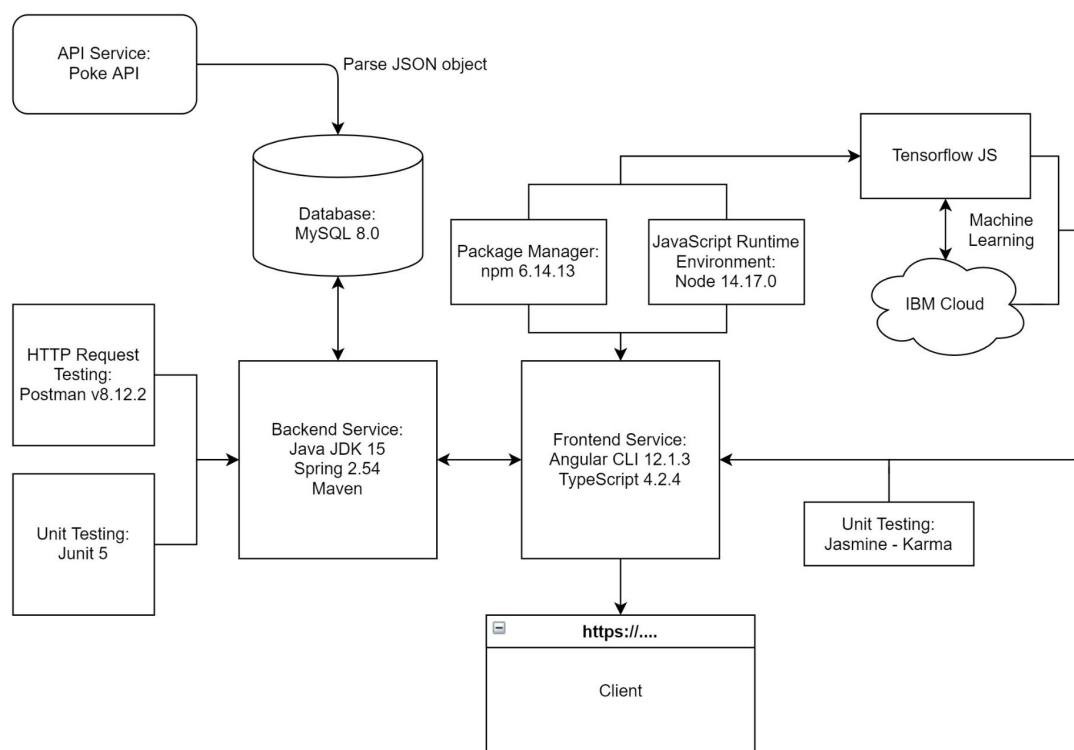
2.4 言語・フレームワーク・ライブラリ・データベース

ポケペディアは、サーバー側にJavaおよびSpringを使用して設計されています。クライアント側は、TypescriptおよびAngularで作成されています。

また、TensorflowJSとIBM Cloudを利用され、機械学習が行われています。

システム概要

3.1 主な機能図



3.2 詳細説明

第一に、PokeAPIサービスからのJSONオブジェクトが解析され、さらに使用するためにMySQL DBに入れます。

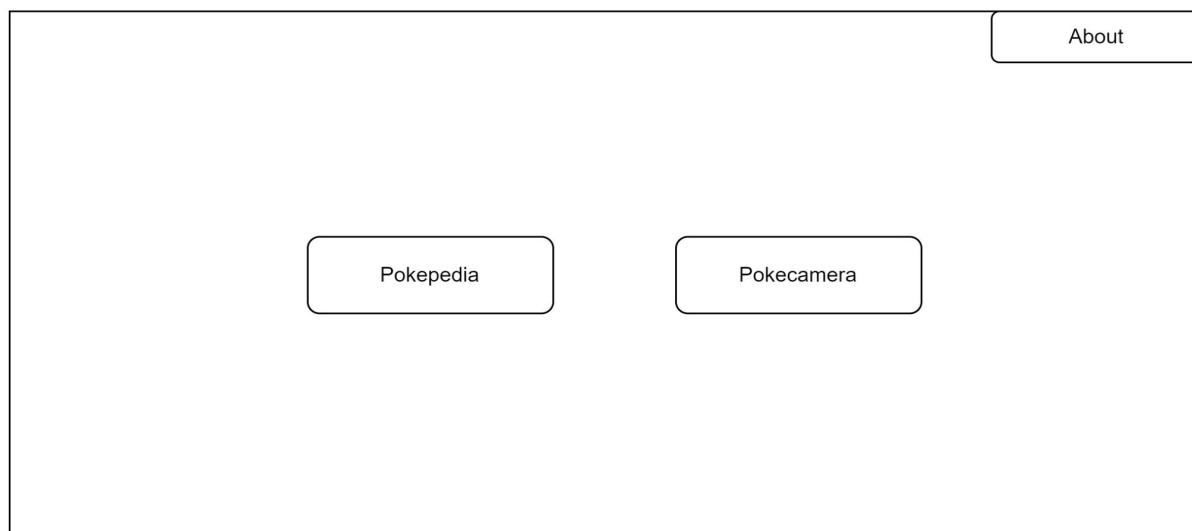
第二に、バックエンドが開発されており、JUnit単体試験と並行してPostmanでHTTPリクエストテストが行われます。

第三に、フロントエンドのTypeScript/Angularの開発が行われ、コンポーネントテストやユニットテストを実施しています。

最後に、TensorflowJSを使ってIBMのクラウドサービス上で機械学習が行われています。このデータは、クライアント側でコンピュータビジョンを実装するために使用されています。

システム機能概要

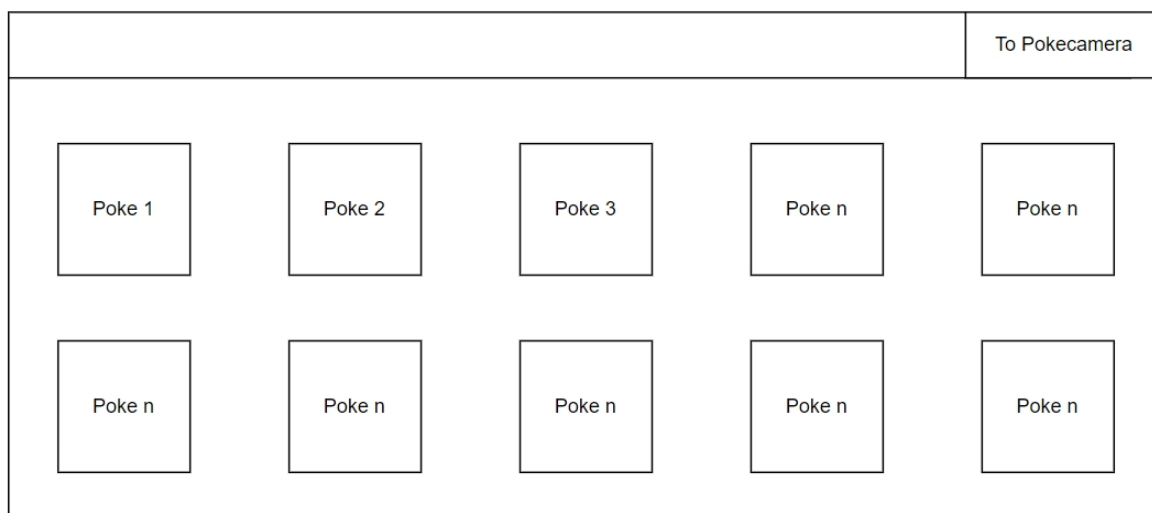
4.1 ホームページ



ホームページは、ウェブサイトの他のページの間にあるスタート地点です。

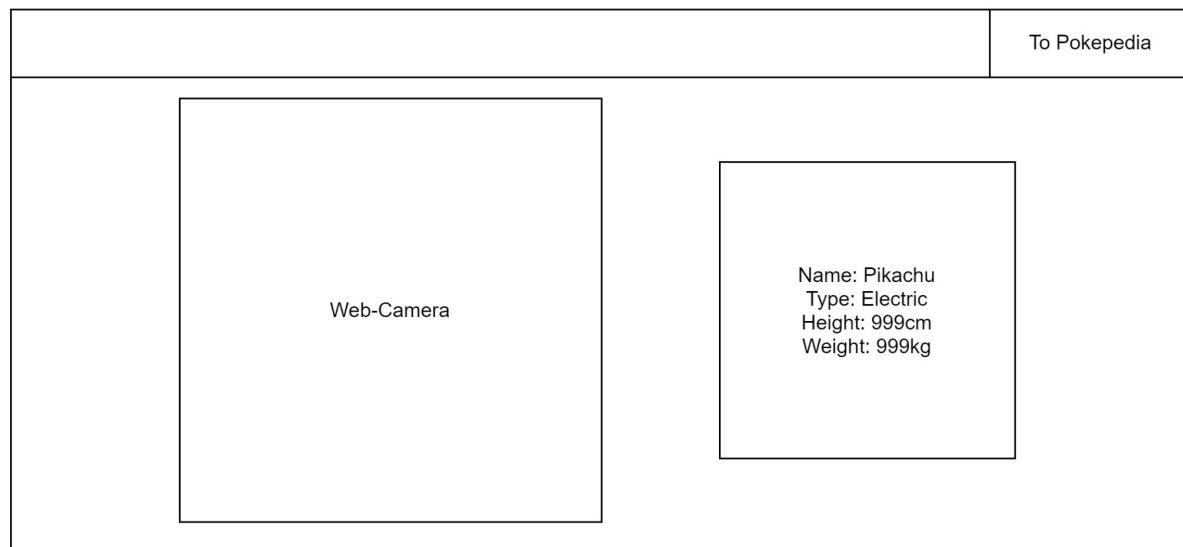
また、ウェブサイトや作者の詳細情報が表示されるポップアップメニューがあります「About」。

4.2 ポケペディア



ポケペディアは、ポケモンのWikiページです。ここでは、ポケモンの詳細な情報を閲覧ことができます。

4.3 ポケカメラ



ポケカメラは、ウェブカメラの前にいるポケモンの情報を表示してくれるページです。

利用条件

5.1 PC上利用条件

HTML5, CSS3, JavaScriptに対応したブラウザです。

5.2 スマートフォンの対応条件

すべてのテストは、最新のiOSおよびAndroidバージョンで行われます。
ディスプレイの解像度は、すべての種類のデバイスに対して個別に設定されます。

試験要件

6.1 試験範囲

試験は大きく分けて、単体試験、コンポーネントテスト、結合試験の3段階に分かれます。試験は、アプリケーションのすべての部分に対して行われます。

6.2 単体試験

単体試験は、サーバー側とクライアント側でそれぞれ行われます。意図した機能はすべて一つずつテストされます。

6.3 コンポーネント試験

コンポーネント試験は単体試験の後に行われ、コンポーネントとして独立してテストされます。

6.4 結合試験

最後に、結合試験が行われます。結合試験の目的は、統合されたユニット間の相互作用における不具合を発見することです。

以上